

令和 6 年度

事業報告

社会福祉法人 田村福社会

目次

1	当該年度の事業及び決算の概要	1～6
2	役職員等の状況	7
3	法人活動状況	8～16
4	各事業報告	17～23
5	身体拘束の実施状況と廃止への取り組み	24
6	事故報告と防止対策	24
7	苦情受付事例と解決への取り組み	25

基本理念

- 良質の福祉サービスを提供します
- 利用される人々の尊厳を守ります
- 地域福祉の発展に貢献します

1 当該年度の事業及び決算の概要

－新型コロナウイルス感染症の影響－

2020年から続く新型コロナ感染症への対応も熟練度が増し、感染時は迅速な対応により少ない被害で落ち着きを取り戻すことができました。ご利用者・ご家族のご不便な状況と職員への負担も徐々に減ってきているものの、感染症に対する不安は依然として継続しており、引き続き標準予防策を徹底するとともに、事業継続計画や感染マニュアルをより深化させ、安心安全な環境を確保し、経営の安定に努めます。

－フル稼働の取り組み－

入退所判定委員会では、各施設の待機者情報も踏まえ、随時開催することにより優先度の高い方が可能な限り、スムーズな入所につながるよう努めました。しかし、入所待機者及び新規申込者の減少は続き、また新型コロナウイルス感染症の影響等で入所調整に時間を要したため、実績には結びつきませんでした。

この地域に施設が充足している今、入所申し込みにかかる情報発信の精度を高め、サービスを必要とする地域のニーズを捉え、切れ目のないサービス提供により、選ばれる法人となるよう努めました。

－物価高騰の影響－

この間の物価高騰では、無駄をなくすことをはじめ、事業の優先順位を見極め、補助金の活用、事業の繰り越しなど、ご利用者へのサービスに影響がない形で支出の抑制を図りました。そんな中、国県からの物価高騰にかかる補助金は法人の厳しい

収入の一助となりました。

物価の高止まりしている現状においては、経費節減、業務効率化の推進を継続してまいります。

－人材確保・定着及び育成へ向けた取り組み－

定期または随時採用試験、臨時等職員の登用試験、学校訪問、関係機関等への広告、職員からの紹介、田村地域高校の学校長推薦、交流会、職場説明会、そして人材紹介会社の活用など定例の取り組みを継続しました。また、SNSでの情報発信では、法人PR動画作成に取り組み、その効果が現れてきているものの、新卒の採用には至らず、中途・既卒採用にとどまりました。

特定技能介護職員の育成では、第1期職員の令和7年度介護福祉士試験合格に向けた新たな支援や、第2期職員の日本語教育、技術習得に向けた支援を進めました。

第3期については、2名の受入れに向け準備を進めたところですが、ミャンマー国内事情により年度内の入国が整いませんでした。今後は、ミャンマー国以外からの入国の検討も進めてまいります。

次世代育成研修では、法人の理念を介護現場に生かすための知識と技術を習得し、法人全体をみる視点をもってそれぞれが先頭に立ち実践し、他職員をけん引する姿は、法人の将来を期待させるものでした。

そして、新たなメンバーで継続したサービス向上プロジェクトでは、法人の理念、職員としての行動指針を磨き上げ、職員の意識を高めるものとなりました。

ー業務負担軽減（ICT導入事業）への対応ー

デジタル技術を活用した業務のプロセスを改善する取り組みとして、ICT機器導入（介護記録システム、インカム通信、記録端末）し本稼働しました。インカムや端末機を使った音声入力や通話連携などにより業務の効率が図れ、職員負担の軽減につながりました。今後についても、補助金等を活用しながら機器導入、生産性向上を図り、経営の効率化を目指したい考えです。

ー各事業の運営状況ー

続く新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響は、職員の献身的な取り組みが事業実績に結びつかず大変苦しい一年でした。

特別養護老人ホームでは、要件を整え新規加算を取得しました。また、ICT機器活用による生産性向上を進めました。さらに、職員が各施設に出向いた研修を実施することで課題であった機能訓練の強化を図りました。

さらに、これまでの感染対策での教訓や今後の経営戦略に対応するため法人全体をカバーする横断的職員の配置に向け準備を進めたところです。

短期入所事業では、感染対策を図りながら、新規利用や困難事例でも積極的な受け入れを実施したことで定期利用につながる利用者も増えました。また、要件を整え新規加算を取得しました。

通所介護事業では、新たに部門会議を開催し情報共有を図り、交流事業を行ったことで業務の見直しや改善、また、職員の認識の変化につながり、サービスの質が向上しました。新規

利用者の獲得では、広報活動に取り組みました。

居宅介護支援事業では、これまで大切にしてきた新規相談を決して断らない姿勢のもと、地域包括及び相談支援事業所と連携を取りながら困難事例を積極的に受け入れました。また、介護支援専門員の法定研修受け入れや、研修・会議により専門職としての知識と技術の向上を図りました。

ケアハウスでは、田村市と連携した運動サロンや閉じこもり防止の取り組みとして参加型の料理クラブを継続し、食の楽しみと認知症予防に取り組んでおりましたが、ここにきて入居者の要介護認定者が増え、生活状況が変化してきております。

また、待機者の確保については、積極的な営業活動を行い、安定した運営に努めました。

ー決算の概要についてー

令和6年度の決算は、前述の要因により50,802千円の資金減となりました。

事業活動収入計は1,814,283千円（前期比4,460千円増）。介護保険事業収入は目標値から大きく下回り、前期比では若干持ち直し17,651千円増。稼働率0.6%減となりました。その他の収入では、新型コロナウイルス感染症や物価高騰への補助金として17,298千円の交付を受けました。

事業活動支出計は1,831,106千円。このうち人件費は1,170,572千円（前年度比16,818千円増）となります。

事業活動収支差額はマイナス16,823千円となり、昨年度から23,176千円減となりました。

施設整備等収支は、県による介護ロボット普及促進やICT

導入支援にかかる補助金 4,843 千円の収入。令和8年度完済するときわ荘建設にかかる借入金元金の返済、自動ドア改修工事、備品等の更新による固定資産取得支出、システムリース等で 33,700 千円となりました。

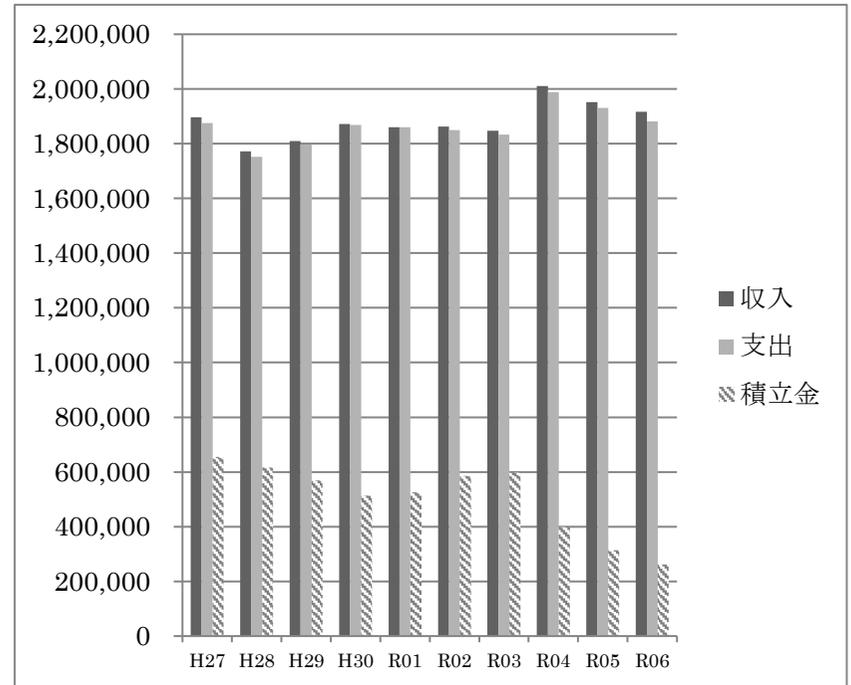
期末時点の資金残高は、当期末支払資金が 649,530 千円、積立資産は 257,612 千円、合計 907,142 千円の資金残高となります。

当期末における全ての資産、負債及び純資産を表す貸借対照表では、資産は 3,558,197 千円で前期比 252,911 千円減、負債は 352,904 千円で前期比 74,314 千円減、純資産は 3,205,293 千円で前期比 178,596 千円減となりました。

—結びに—

深刻な人材不足や物価高騰、制度改正への対応など、我々がかつてない厳しい経営環境に直面しております。こうした状況下にあっても、日々誠実に職務に邁進する職員の姿に、変革に立ち向かう専門職集団としての期待をさせるものです。

全国の約4割の法人が赤字となる中、資金力があり、時流を掴んだ人材戦略・業務効率化を整えた法人だけが生き残るを痛感したいま、地域で立ち上げて頂いた当法人が持続可能な経営を目指すためには、スタートさせたICT機器導入推進事業をさらに進め、国が進める社会福祉連携推進法人への動きも捉え、そして、連携する法人連絡協議会での議論を深め、自分たちが生き残るための方策と向き合う事が最大の課題だと認識しております。



*決算推移グラフ (単位：千円)

“地域で困っている方々のお役に立つ”こうした我々の福祉の原点を忘れることなく、職員一人ひとりが“田村福祉会プライド”の実践を継続し、サービスの質を向上させ、やりがいをもてる組織であるために、これからも役職員一丸となって努力を重ねて参ります。今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人田村福祉会
理事長 渡辺 剛志

*主要工事等の概要（200万円以上）

<船引こぶし荘第2変電所高圧機器更新工事>

- 1) 事業概要 経年劣化による変電所高圧機器更新工事
- 2) 契約金額 6,160,000円（税込）
- 3) 完 成 令和6年10月20日
- 4) 契約業者 田村市船引町船引字砂子田155-1
株式会社大平電業社
- 5) 財源内訳 自己資金



<ケアハウスふねひき福寿荘自動ドア改修工事業>

- 1) 事業概要 自動ドア改修工事業
- 2) 契約金額 4,180,000円（税込）
- 3) 完 成 令和6年12月18日
- 4) 契約業者 郡山市安積町荒井2-245
ナブコシステム株式会社郡山支店
- 5) 財源内訳 自己資金



<船引こぶし荘浄化槽修繕工事業>

- 1) 事業概要 経年劣化による浄化槽修繕工事
- 2) 契約金額 2,948,000円（税込）
- 3) 完 成 令和7年1月16日
- 4) 契約業者 郡山市安積町長久保4-1-10
株式会社アサヒビルサービス
- 5) 財源内訳 自己資金



<ケアハウスふねひき福寿荘屋根塗装改修工事業>

- 1) 事業概要 屋根塗装改修工事業
- 2) 契約金額 5,687,000円（税込）
- 3) 完 成 令和7年1月16日
- 4) 契約業者 郡山市喜久田町卸3-38-1
株式会社郡山塗装
- 5) 財源内訳 自己資金



<非常用照明設備更新工事業>

1) 事業概要 経年劣化による非常用照明設備更新工事

2) 契約金額 2,134,000円(税込)

内訳 船引こぶし荘 1,481,700円

船引デイサービスセンター 69,300円

ふねひき福寿荘 583,000円

3) 完 成 令和7年2月14日

4) 契約業者 郡山市安積町長久保4-1-10

株式会社アサヒビルサービス

5) 財源内訳 自己資金



【固定資産取得費、修繕費の概要】

＜建物付属設備＞

○設備～インバータ搭載発電機

○環境～食堂自動ドア、礼拝室、ガス給湯器

＜器具及び備品＞

○設備～汚物除去機、エアコン、液晶テレビ、パソコン、業務用フードプロセッサー

○介護看護～車椅子用体重計、電動ベッド（付属品含む）、昇降テーブル、リクライニング車椅子

*固定資産取得費計（A）＝11,554千円

＜修繕工事等＞

○内装～壁、棚、天井、浴室タイル、畳、窓鍵、カーテン、ドア

○電気～非常用発電装置、照明器具、コンセント、エアコン

○設備～浴室シャワー、浴槽、洗濯機、汚物除去機、ナースコール、空調設備、乾燥機、テレビ配線、網戸、排水管、トイレ、ボイラー、暖房用ポンプ、給湯配管、貯湯槽、電気温水器、洗面台、洗面台混合栓、給茶機、自動水栓、ガス報知機、監視カメラシステム、PHS

○外部設備～変電所高圧機器、浄化槽、雨樋、階段、煙突、自家発電設備、屋根塗装、給水管、外灯、出入管理システム

グリストラップ蓋、施設看板

○介護看護～車椅子、特殊浴槽、ベッド、体温計、加湿器、トイレ便座、エアーマットレス、除雪機、製氷機

○消防～消防設備、誘導灯

○厨房～冷蔵庫、温冷カート、業務用オープン、混合水栓、食器消毒保管器

*修繕費用計（B）＝ 39,373千円

（A）＋（B）＝ 50,927千円

2 役職員等の状況（令和7年3月31日現在）

(1) 役員

区分	人数	年度内の異動状況
理事	6名	
監事	2名	
計	8名	

(2) 評議員

区分	人数	年度内の異動状況
評議員	7名	
計	7名	

(3) 管理職

区分	人数	年度内の異動状況
局長、施設長	6名	退職1名
副施設長・事務長	1名	
計	7名	

*局長＝本部事務局長

(4) 総務系職員 ()は雇用形態の変更に伴う退職採用数

区分	人数	年度内の異動状況
事務職員	9名	退職3名、採用2名
管理栄養士	7名	
臨時雇用	3名	採用1名
計	19名	

(5) 事業系職員 ()は雇用形態の変更に伴う退職採用数

区分	人数	年度内の異動状況
相談支援	18名	退職1名
介護職員	120名	退職6名、採用8名(3名)
臨時介護員	39名	退職6名(2名)、採用7名
看護等職員	23名	退職1名、採用3名
臨時看護師	3名	
機能訓練指導員	2名	
計	205名	

*相談支援＝生活相談員、介護支援専門員

*看護等職員＝看護師、機能訓練指導員兼務

(6) パートタイマー（実数）

区分	人数	年度内の異動状況
総務系	16名	退職1名、採用3名
事業系	56名	退職5名、採用3名
計	72名	

合計職員数 (3)～(6)

区分	人数	比率
正職員	186名	61.4%
臨時雇用	45名	14.8%
パート雇用	72名	23.8%
計	303名	

*障害者雇用6名（法定雇用率2.5%、法人実績率1.3%）

*上記「人数」は3/31付け退職者を在籍とする期末時点の人数、「年度内の異動状況」は3/31付け退職を含む人数としている。

法人活動状況

月 日	内 容
4月 1日	辞令交付式 ○新採用職員4名（介護員3名、事務員1名） 新採用職員研修1日目
4月 2日	新採用職員研修2日目
4月 3日	新採用職員研修3日目
4月 5日	決算書類公認会計士事務所打合せ
4月 6日	地域貢献事業（さくらの里クリーンアップ作戦 法人）
4月 9日	理事長巡回（あぶくま荘、こまち荘）
4月11日	施設長会議 ○各施設運営状況等確認、入退所判定委員会委員、人材育成研修年次、定額減税等 法人運営会議 ○プロジェクト2024
4月12日	職員採用試験 ○5月1日付採用介護員3名、事務員1名内定
4月16日	監事会 ○決算監査の方針
4月19日	理事長巡回（都路まどか荘、船引こぶし荘）
4月20日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
4月22日	第1回ときわ荘入退所判定委員会
4月26日	理事長巡回（本部）
4月28日	交流会・職場説明会（第28回）

月 日	内 容
5月 1日	職員採用辞令交付 介護員3名、事務員1名
5月 3日	公認会計士事務所往査1日目
5月 4日	公認会計士事務所往査2日目
5月 7日	OURとの入国事前打合せ（リモート）
5月 9日	施設長会議 ○各施設運営状況等確認、人材育成研修、定額減税対応、特定技能介護職員（2期生）受入、ハラスメント、親睦会活動、新加算等 法人運営会議 ○プロジェクト2024、特定技能介護職員サポート、人事・給与制度再構築
5月14日	決算監査1日目 ○関係書類の確認（本部集約）、各施設担当者へのヒアリング（リモート）
5月15日	監事監査2日目 ○関係書類の確認（本部集約）、各施設担当者へのヒアリング（リモート）、全体講評
5月17日	法人運営会議（理事会資料確認）
5月18日	職員採用試験 ○6月1日付採用看護師1名内定 社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
5月20日	第1回部門会議（管理栄養士）
5月23日	第1回船引こぶし荘入退所判定委員会

月 日	内 容
5月24日	介護・看護の合同職場説明会 in たむら
5月26日	交流会・職場説明会（第29回）
5月27日	第1回都路まどか荘入退所判定委員会 第2回ときわ荘入退所判定委員会
5月28日	第2期外国人介護人材（特定技能介護職員）入国 第1回あぶくま荘入退所判定委員会
5月29日	社会貢献活動（福祉介護の職場見学会 こまち荘）
5月30日	理事会 決議及び承認事項） ○令和5年度事業報告及び収支決算報告 ○理事の選任候補者の推薦 ○定時評議員会の招集事項 報告事項） ○監事監査報告 ○理事長専決 予備費充当、事業完了報告 ○理事長及び常務理事の職務執行状況報告
5月31日	第1回こまち荘入退所判定委員会
6月 1日	職員採用辞令交付 看護師1名
6月 3日	第2期特定技能介護職員歓迎会
6月 4日	社会福祉法人代表者会議 法人PR動画撮影（あぶくま荘）
6月 5日	施設長会議

月 日	内 容
	○各施設運営状況等確認、人材育成研修、中途採用職員研修、助成金、能登半島支援、求人活動等 法人運営会議 ○プロジェクト2024、BCP、デイ稼働率、助成金他
6月 7日	第1回法人入退所判定委員会 法人PR動画撮影（あぶくま荘）
6月14日	評議員会 決議及び承認事項） ○令和5年度収支決算報告 ○理事の選任 報告事項） ○監事監査報告 ○令和5年度事業報告 ○令和6年度事業計画及び収支予算報告 ○理事長及び常務理事の職務執行状況報告
6月15日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘）
6月18日	職員採用試験 ○7月1日付採用看護師1名内定 夏期賞与査定
6月23日	交流会・職場説明会（第30回）
6月24日	第2回部門会議（管理栄養士） 交流会・職場説明会チラシ新聞折込①

月 日	内 容
6月27日	第3回ときわ荘入退所判定委員会 高校・専門学校進路指導担当教諭との懇談会 社会貢献活動（福祉介護の職場見学会 船引こぶし荘）
6月28日	職員退職辞令交付 看護師1名
6月30日	第1回福祉の職場合同就職説明会
7月 1日	職員採用辞令交付 看護師1名
7月 2日	第1回部門会議（主任介護員）
7月 5日	1市2町事業報告及び意見交換会 ○決算及び事業報告 ○事業計画及び予算 ○意見交換（修繕補助金、こまち荘特養床転換、外国人介護人材受入等） 施設長会議 ○各施設運営状況等確認、人材育成研修、求人活動、宿直者配置、能登半島支援、損害保険等 法人運営会議 ○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員研修サポート、人事・給与制度、ICT導入進捗等
7月 8日	第1回看護チーム会議
7月 9日	法人中途採用職員研修
7月11日	評議員役員研修会
7月12日	理事会（決議の省略）

月 日	内 容
	決議及び承認事項） ○評議員選任・解任委員会委員の選任
7月18日	第1回苦情解決第三者委員会（都路まどか荘）
7月20日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
7月23日	理事長巡回（本部、こまち荘）
7月24日	学校訪問（田村・船引・小野高校）
7月27日	社会貢献活動（三春大町清掃活動 あぶくま荘）
7月28日	交流会・職場説明会（第31回）
7月30日	第2回都路まどか荘入退所判定委員会 第4回ときわ荘入退所判定委員会 理事長巡回（本部、あぶくま荘、都路まどか荘、船引こぶし荘）
8月 1日	社会貢献活動（地域医療体験研修 こまち荘）
8月 3日	職員採用試験 ○9月1日付採用介護員1名内定 ○令和7年4月採用介護員1名内定
8月 5日	第2回部門会議（主任介護員）
8月 6日	法人連絡協議会 ○各法人事業活動状況、ICT機器導入推進事業、外国人材受入
8月 8日	施設長会議 ○各施設運営状況等確認、人材育成研修、福祉車両リ

月 日	内 容
	ース、マイナンバーカード、BCP、経費節減等 法人運営会議
	○プロジェクト2024進捗状況、職場環境改善、サー ビス向上プロジェクト、人事・給与制度等
8月 9日	第2回こまち荘入退所判定委員会
8月17日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘） 第5回ときわ荘入退所判定委員会
8月19日	評議員選任・解任委員会
8月21日	第1回部門会議（デイサービス）
8月22日	第2回船引こぶし荘入退所判定委員会
8月25日	交流会・職場説明会（第32回）
8月26日	第2回あぶくま荘入退所判定委員会（書面）
8月27日	新任事務員研修
9月 1日	職員採用辞令交付 介護員1名
9月 3日	第1回次世代育成フォローアップ研修
9月 5日	法人運営会議（理事会議案確認） 施設長会議
	○各施設運営状況等確認、法人全体研修、最低賃金への 対応、デイ交流事業、メンタルヘルス事業、福利厚生研 修等
	法人運営会議
	○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員生

月 日	内 容
	活サポート、ICT業務改善等
9月 6日	第2回法人入退所判定委員会
9月10日	第1回中堅職員研修 交流会・職場説明会チラシ新聞折込②
9月18日	県監査、運営指導（都路まどか荘、デイサービス） 第6回ときわ荘入退所判定委員会
9月19日	理事会 決議及び承認事項） ○収支予算の一部補正
9月21日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
9月22日	交流会・職場説明会（第33回）
9月25日	第3回部門会議（主任介護員）
9月26日	監事会 ○中間監査方針
9月27日	県監査（ときわ荘） 第1回サービス向上プロジェクト会議
9月30日	職員退職辞令交付 介護員1名
10月 1日	第2回中堅職員研修 第3回都路まどか荘入退所判定委員会
10月 3日	ICT推進：国際福祉機器展（東京）
10月10日	施設長会議 ○各施設運営状況等確認、全体研修会、福利厚生研修、

月 日	内 容
10月11日	<p>デイサービス交流事業、メンタルヘルス、上期人事考課、意向調査面談、感染症等</p> <p>法人運営会議</p> <p>○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員試験対策、キャリアパス制度、ICT業務改善、処遇改善手当等</p> <p>職員採用試験</p> <p>○令和7年1月1日付採用看護師1名内定</p> <p>第2回次世代育成フォローアップ研修</p> <p>法人PR動画撮影（船引こぶし荘）</p>
10月15日	第1回事業部門会議
10月16日	法人全体研修（田村市辰巳屋）
10月17日	第2回苦情解決第三者委員会（船引こぶし荘）
10月19日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
10月21日	第1回メンタルヘルスケア職場訪問（あぶくま荘）
10月23日	<p>第1回総務部門会議</p> <p>第1回部門会議（ショートステイ担当生活相談員）</p>
10月25日	<p>第2回サービス向上プロジェクト会議</p> <p>第3回こまち荘入退所判定委員会</p>
10月27日	交流会・職場説明会（第34回）
10月28日	第7回ときわ荘入退所判定委員会
10月29日	<p>中間監査1日目</p> <p>業務執行状況（本部、あぶくま荘、こまち荘、ときわ荘）</p>

月 日	内 容
10月30日	<p>中間監査2日目</p> <p>業務執行状況（都路まどか荘、船引こぶし荘）</p>
10月31日	<p>第2回メンタルヘルスケア職場訪問（都路まどか荘）</p> <p>職員退職辞令交付 介護員1名</p>
11月 1日	<p>法人運営会議（理事会議案確認）</p> <p>施設長会議</p> <p>○各施設運営状況等確認、上期人事考課、意向調査面談、福利厚生研修、福祉車両リース等</p> <p>法人運営会議</p> <p>○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員試験対策、ICT業務改善、職場環境改善、人材確保等</p> <p>法人PR動画撮影（船引こぶし荘）</p>
11月 5日	第3回中堅職員研修
11月 6日	第3回部門会議（管理栄養士）
11月 7日	<p>施設長会議</p> <p>○人事考課について</p> <p>仙台出入国在留管理局調査（あぶくま荘）</p> <p>第3回メンタルヘルスケア職場訪問（こまち荘）</p>
11月 8日	第3回次世代育成フォローアップ研修
11月11日	第2回部門会議（デイサービス）
11月14日	<p>理事会</p> <p>報告事項）</p>

月 日	内 容
	○理事長及び常務理事の職務執行状況報告 ○監事監査報告 その他) ○評議員への上期報告会内容検討
11月16日	第4回メンタルヘルスケア職場訪問（船引こぶし荘） 社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
11月18日	第4回部門会議（主任介護員）
11月19日	福祉のしごと相談会
11月20日	福利厚生研修（第1班） 第1回デイサービス交流事業（都路）
11月22日	評議員への上期報告会 ○令和6年度上期理事長及び常務理事の職務執行状況報告 ○中間監査報告
	第2回デイサービス交流事業（船引） 第5回メンタルヘルスケア職場訪問（都路まどか荘）
11月24日	交流会・職場説明会（第35回）
11月25日	第3期外国人介護人材（特定技能介護職員）面接① 第4回都路まどか荘入退所判定委員会
11月28日	第3回船引こぶし荘入退所判定委員会 第6回メンタルヘルスケア職場訪問（ときわ荘）
11月29日	第3回サービス向上プロジェクト会議

月 日	内 容
12月 2日	第7回メンタルヘルスケア職場訪問（あぶくま荘） ○UR定期面談①（本部）
12月 3日	第4回中堅職員研修 第2回福祉の職場合同就職説明会
12月 5日	法人運営会議（理事会議案確認） 施設長会議 ○各施設運営状況等確認、意向調査面接、特定処遇改善手当、福利厚生研修、収支改善策、経費節減、等 法人運営会議 ○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員支援状況、ICT機器推進、職場環境・業務改善等
12月 7日	職員採用試験 ○令和7年1月1日採用看護師1名、介護員1名内定 ○令和7年4月1日採用看護師1名内定
12月 9日	第3回あぶくま荘入退所判定委員会
12月10日	ICT推進：見守り機器の施設実演 第3回デイサービス交流事業（都路）
12月12日	第8回メンタルヘルスケア職場訪問（船引こぶし荘）
12月13日	第2回事業部門会議
12月15日	職員退職辞令交付 介護員1名
12月16日	第4回デイサービス交流事業（船引）
12月18日	福利厚生研修（第2班） 第9回メンタルヘルスケア職場訪問（こまち荘）

月 日	内 容
12月19日	理事会 決議及び承認事項) ○収支予算の一部補正 ○食事サービス提供業務委託契約締結 ○リネン製品リース契約締結 ○施設等総合管理業務委託契約締結 報告事項) ○理事長専決契約
12月20日	第2回総務部門会議 第4回サービス向上プロジェクト会議 第10回メンタルヘルスケア職場訪問（都路まどか荘）
12月21日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘）
12月22日	交流会・職場説明会（第36回）
12月23日	交流会・職場説明会チラシ新聞折込③ 第5回デイサービス交流事業（船引）
12月25日	第8回ときわ荘入退所判定委員会（書面）
1月 1日	職員採用辞令交付 看護師1名、介護員1名
1月 7日	第5回中堅職員研修
1月 9日	施設長会議 ○各施設運営状況等確認、節電、感染症、補助金、福利厚生研修、次年度スケジュール、再任用契約、無期転換等

月 日	内 容
	法人運営会議 ○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員支援状況、ICT機器推進、職場環境、業務改善リース契約、BCP等
1月10日	県監査（本部、あぶくま荘）
1月15日	第3回部門会議（デイサービス） 職員退職辞令交付 事務員1名
1月16日	第11回メンタルヘルスケア職場訪問（ときわ荘）
1月17日	第5回サービス向上プロジェクト会議 第4回こまち荘入退所判定委員会
1月18日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘）
1月20日	第5回部門会議（主任介護員）
1月21日	第9回ときわ荘入退所判定委員会
1月22日	福利厚生研修（第3班）
1月23日	第12回メンタルヘルスケア職場訪問（船引こぶし荘）
1月24日	市実地指導（船引居宅） 法人連絡協議会 ○各法人事業活動状況、ICT、マイナ保険証、職員育成等
1月26日	交流会・職場説明会（第37回）
1月27日	第4回部門会議（管理栄養士） 第5回都路まどか荘入退所判定委員会
1月28日	第13回メンタルヘルスケア職場訪問（船引こぶし荘）

月 日	内 容
1月30日	第3期外国人介護人材（特定技能介護職員）面接②
1月31日	第3回事業部門会議 第14回メンタルヘルスケア職場訪問（都路まどか荘）
2月 3日	第15回メンタルヘルスケア職場訪問（船引こぶし荘） 令和7年度予算査定1日目
2月 4日	// 2日目
2月 6日	施設長会議 ○各施設運営状況等確認、県監査結果、経営情報システム、介護報酬加算・減算状況、福利厚生研修、人材育成研修（副主任以上）等 法人運営会議 ○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員支援状況、ICT機器推進、処遇改善手当等 第10回ときわ荘入退所判定委員会
2月 7日	第6回中堅職員研修
2月12日	第2回看護チーム会議
2月13日	事務員研修 第2回部門会議（ショートステイ担当生活相談員） 第16回メンタルヘルスケア職場訪問（ときわ荘）
2月15日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘）
2月17日	社会保険労務士による人材育成研修 施設長会議

月 日	内 容
	○令和7年度職員配置
2月19日	福利厚生研修（第4班）
2月20日	第4回船引こぶし荘入退所判定委員会
2月21日	第6回部門会議（主任介護員） 第6回サービス向上プロジェクト会議 船引高校地元企業職場説明会 第17回メンタルヘルスケア職場訪問（船引こぶし荘）
2月23日	交流会・職場説明会（第38回）
2月25日	施設長会議 ○人事考課、令和7年度職員配置
2月26日	第18回メンタルヘルスケア職場訪問（あぶくま荘）
2月27日	第5回部門会議（管理栄養士）
3月 5日	法人運営会議（理事会議案確認） 施設長会議 ○各施設運営状況等確認、食費、処遇改善手当、福利厚生研修、新採用研修等 法人運営会議 ○プロジェクト2024進捗状況、特定技能介護職員支援状況、ICT機器推進、次年度プロジェクト等 第11回ときわ荘入退所判定委員会
3月 7日	第19回メンタルヘルスケア職場訪問（こまち荘）
3月10日	第6回都路まどか荘入退所判定委員会

月 日	内 容
3月12日	第5回こまち荘入退所判定委員会（書面）
3月13日	第20回メンタルヘルスケア職場訪問（ときわ荘）
3月14日	理事会 決議及び承認事項） ○令和6年度収支予算の一部補正 ○令和7年度事業計画及び収支予算 ○給与規程の一部改正 ○経理規程の一部改正 ○育児・介護休業等に関する規則の一部改正 ○役員等賠償責任保険契約 ○施設長及び事務長の選任 協議事項） ○理事長専決事項 ○職員採用状況
3月15日	社会貢献活動（認知症カフェ：都路まどか荘、ときわ荘）
3月19日	第7回部門会議（主任介護員）
3月21日	OUR定期面談②（あぶくま荘、こまち荘、船引こぶし荘）
3月23日	交流会・職場説明会（第39回）
3月31日	退職辞令交付 定年退職）看護師2名、介護員4名 依願退職）事務員2名、相談員1名、介護員2名

<社会貢献活動>	
○さくらの里クリーンアップ作戦への参加	○三春大町地区清掃活動
○認知症カフェ「まどかカフェ」の開催	○認知症カフェ「ふれあい喫茶とこのは」の開催
○中学・高校の福祉・介護職場見学会（田村市、小野町）	

<交流会・職場説明会>	
開 催	12回 毎月第4日曜日
対応職員	事務局長、施設長、事務長
事業PR	新聞折込（年4回 17,500部） 法人ホームページ 1市2町の広報誌掲載
参加実績	参加者15名 ⇒ 採用3名 （臨時1名、パート2名）

<新型コロナ感染クラスターの概要>	
事業所	4事業所、6回
陽性者	利用者76名、職員39名
影 響	○短期入所事業の休止 ○通所事業の休止 ○新規入所者の入所日延期 ○人件費（時間外）の増 ○医薬品費の増 ○消耗器具備品費の増 ○事業再開後のご利用者の再利用

4-1 各事業報告（特別養護老人ホーム・老人短期入所事業）

	特別養護老人ホーム あぶくま荘	特別養護老人ホーム こまち荘	特別養護老人ホーム 都路まどか荘	特別養護老人ホーム 船引こぶし荘	特別養護老人ホーム ときわ荘
特養ホーム の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①施設経営の安定化と効率化アップ ②不測の事態に対応できる継続計画の整備 ③ご利用者の生活機能維持・向上 ④腰痛予防対策と福祉機器活用 ⑤地域貢献における施設の資源化 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域に密着したサービスの提供による稼働率の向上 ②感染症予防対策と重大事故防止の徹底 ③ICT導入による業務効率化と負担軽減 ④特定技能職員の育成 ⑤新たな運営基準への対応 ⑥介護・医療との連携による資質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ①安定稼働に向けた施設体制づくり ②各種研修参加機会の確保 ③重大事故予防への取り組み ④ICT活用等による業務負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT技術を活用した業務効率化と良質なサービス提供 ②感染症・自然災害・重大事故防止対策の分析と対応強化 ③緊急時等の協力医療機関との医療連携強化 ④施設設備等の安全な維持管理 ⑤新たな加算への積極的対応 ⑥地域貢献（関係機関との連携） 	<ul style="list-style-type: none"> ①BCPに基づいた災害及び感染対策 ②ICT活用による業務改善 ③介護報酬改定への対応 ④職員の育成及び定着 ⑤計画的な営繕管理体制の構築
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ①例年より多くの入院者、退所者となった。待機者の見送りや、受け入れ前の実態調査が先方側の感染症の影響で延びる等、スムーズな入所調整に至らなかった。 ②事業継続計画を策定し、全体会議で職員周知を図った。引き続き、より実効性のある計画を目指す。 ③機能訓練指導員が配置されたことで、歩行訓練や可動域訓練、レクリエーション等が充実し、楽しみを持っての訓練が残存機能維持に繋がった。 ④腰痛防止研修へ参加、移乗用福祉用具を活用し、持ち上げない介護を推進した。 ⑤社協主催の高齢者支援事業へ参加を予定したが、周辺の感染状況を踏まえ参加を見送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①待機者の見送りや取り下げ、感染対策期間の影響もありスムーズな入所調整に至らなかった。 ②感染対策委員会の開催、標準予防対策の徹底を強化したが2回にわたりコロナ感染クラスターがあった。重大事故の発生もあり服薬管理マニュアル等の見直しをして再発防止に努めた。 ③ICTを活用し業務内容の改善、業務負担の軽減に努めた。機器の使用については定着してきている。 ④プリセプターを中心に親切丁寧な指導に努め日勤帯返は育成することができた。 ⑤運営基準に対応するように研修、書類の整備を行った。 ⑥多職種連携により情報の共有を図ったが、ご利用者の状態の低下が顕著にみられ入院、退所が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ①多職種連携による入所者の受け入れ、入院者を減らす取り組みについては、安定稼働に繋がった。また、新たな介護報酬加算取得に努めた。 ②外部研修、オンライン研修に積極的に参加した。また、施設内研修を実施し、職員の質の向上を図った。 ③事故防止検討委員会を中心に事故検討を毎月行い、予防策の周知を行った。また、事故防止研修会を実施し再発防止に努めた。 ④ICTを積極的に活用することで、業務環境の改善を図った。また、業務改善推進チームを中心に、業務内容の見直しを行うことで、ペーパーレス化や業務負担軽減に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①記録システム（タブレット等）、AI音声記録システム（スマートフォン、インカム）の導入により業務効率化を図った。 ②自衛消防とBCP活動による訓練、研修会等平時の取り組みを定期的に行った。 ③医療機関との連携を密に図り、早期対応に努めた。 ④施設設備等を計画通りに更新した。 ⑤科学的介護に関わる加算を取得した。 ⑥福祉・介護の職場見学会にて地域の中学校へ出張し講義や体験会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①有事の行動内容・日頃の気づきを促す訓練に努め、感染対策では嘱託医からの助言を受けご利用者への影響が最小限になるように努めた。 ②ICT機器導入により記録の効率化を図れた。 ③新たに褥瘡マネジメント加算を算定し、次年度に向け科学的介護推進体制・生産性向上推進体制加算算定に向け体制を整えた。 ④「その人らしい暮らしの継続」の支援方針の確立のため継続的な育成に取り組み、この職の魅力が定着へつながるようコミュニケーションに努めた。 ⑤限られた資金での計画的な修繕となるため、借入金返済完了後の準備作業に着手した。

	特別養護老人ホーム あぶくま荘	特別養護老人ホーム こまち荘	特別養護老人ホーム 都路まどか荘	特別養護老人ホーム 船引こぶし荘	特別養護老人ホーム ときわ荘
短期入所の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①稼働率改善（稼働目標値：83%） ②個々のご利用者・ご家族のニーズに合わせた柔軟な受け入れ ③多職種連携によるサービスの質の向上 ④感染症や災害、事故防止対策 	<ul style="list-style-type: none"> ①新規ご利用者の確保と利用継続への取り組みによる稼働率の向上 ②感染症予防対策及び事故防止対策の徹底 ③サービスの質の向上 ④ご家族及び関係事業所との連携による情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ①ご利用者の定期利用への定着 ②ご利用者、ご家族との情報共有とニーズに基づいたサービスの提供 ③工夫した余暇活動の提供 ④感染症予防対策及び重大事故防止対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ①ニーズの把握とそれに基づいたサービスの提供 ②ご家族・関係機関・各部署との綿密な情報共有とサービスの質の向上 ③地域からの期待に応え、稼働率につなげる ④根拠に基づく感染予防と重大事故防止対策の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種対策に基づく教育訓練の充実 ②個別支援によるサービス向上 ③各種加算算定の体制づくり ④情報共有及び居宅との連携強化
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ①目標値に及ばず。予約段階では、順調な受付数であったが、コロナ感染の影響で受け入れを止めざるを得ない期間が稼働低下の大きな要因となった。 （短期稼働率：68.1%） ②現場の協力体制を密に、ショートステイ利用期間中の受診対応や、住環境・介護力に課題があり在宅介護が難しい期間の長期受け入れ等を柔軟に対応した。 ③インカム導入により、多職種で意見交換が活発化した。また、リアルタイムな情報共有で、情報共有時間が削減し、サービス提供時間の確保にも繋がった。 ④BCP委員会や事故防止対策委員会を中心に、リスクの把握を行い安全なサービス提供に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①困難な事例の受け入れも行い短期間ではあるが定期的な利用につながっている。クラスター時の受け入れ制限、中止、他施設への入所など稼働率を向上させることはできなかった。 ②標準予防策の徹底、ご利用者の体調に注意しながら対応した。感染対策期間中もご家族の了承を得て可能な限り受け入れを行った。誤薬事故や施設利用が直接の原因ではないが圧迫骨折から入院になった事例もあり再発防止に努めていく。 ③急な申込であっても可能な限り受け入れを行った。利用中の情報を事業所に報告し在宅でのサービスに繋がるよう努めた。 ④ご利用者、ご家族の意向を確認し適切なサービスの提供に努めた。その都度居宅介護支援事業所との連携を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①都路町内や周辺地域の新規ご利用者も積極的に受け入れ、利用継続に至った。 ②ご利用者、ご家族、各関係機関と情報共有し連携を図ることでニーズを把握し、意向に沿った支援に繋がった。希望の日程で利用できるよう居室調整を行い稼働向上に努めた。 ③感染症対策により活動の制限はあったが、各種行事や集団体操への参加を図った。ご利用者同士で交流ができるよう居室や席の配置を整備した。 ④健康チェック、ご家族の健康状態確認を行うほか、ご利用時の検温やマスクの着用など、感染予防対策の徹底に努めた。ご利用者の状態に合わせ、事故防止について多職種で随時検討し対策に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新規利用者は計46名。多職種連携を図り積極的に新規の確保に努めた。新型コロナウイルス感染症による利用休止や外事業所での感染状況で利用見合わせ等により稼働が伸びなかった状況があったが、年度末には徐々に稼働も上がってきた。 ②利用希望に沿った日程調整や意向を反映することができた。キャンセルが出た際にはスムーズに連絡を入れ利用に繋がった。 ③各部署への情報共有の方法について検討し、スムーズな受け入れが行えるよう工夫した。 ④利用前日や当日にご利用者やご家族の状態確認を行うほか、ご利用時の検温やマスクの着用など、感染予防対策の徹底に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①対策効果を図るため、特に感染・誤薬・骨折事故の教育について気づきを養うためのコミュニケーションを推進した。 ②ICT機器導入で記録入力時間が短縮し、個別ケアによる楽しみの持てる支援時間の拡大につながった。 ③看護体制・生産性向上維持推進体制加算算定に向け体制を整えた。 ④利用前後の丁寧な情報共有に努めることで、継続的なサービス利用実績につながった。

特別養護老人ホーム～諸活動の実績

(1) 各種行事、クラブ活動等の状況 ⇒ 規模縮小
 施設内で実施した季節等の行事

		主たる実施内容
春	3月～5月	桃の節句、春彼岸、観桜会、端午の節句、母の日、菖蒲湯
夏	6月～8月	父の日、七夕、夕涼み会、夏祭り、盆供養
秋	9月～11月	敬老会、秋彼岸、お月見会、芋煮会、運動会
冬	12月～2月	クリスマス会、忘年会、越年会、餅つき、ゆず湯、お正月、新年会、賀寿交歓会、鏡開き、七草、小正月、節分
通年		開所記念日、利用者懇談会、誕生会、百歳賀寿、茶話会、居酒屋、お楽しみレストラン、お茶カフェ会 お楽しみショッピング、デイサービスとの共同行事、園外活動、お楽しみ食事会、ふれあい会

家族や地域との交流があった行事

		主たる実施内容
ボランティア等		各ボランティア活動や団体の受入れ（演芸、創作、行事、郷土料理、実習生受入、作業奉仕、傾聴、音楽、手話等）
施設行事等		夏祭り、夕涼み会、敬老会、クリスマス会、越年会、餅つき、忘年会、買い物、ふる里訪問、ドライブ
家族会・地域連携		家族会（役員会、総会、奉仕作業）、地域連携夜間総合防災訓練、地域行事への参加、介護者教室、百歳賀寿、福祉・介護の職場見学会

趣味・余暇活動やクラブ活動等

		主たる実施内容
趣味・余暇活動		創作活動（俳句、手芸、編み物、絵画、ぬり絵、習字等）、読書、朗読、歌唱、映画等観賞会、料理、園芸、お茶会 レクリエーション活動、余暇活動教室、体操、踊り、施設外活動（ドライブ、買い物、外食、ふる里訪問等） ユニットケア施設～ユニット交流会、ふれあい活動
クラブ活動		創作、書道、絵画、手芸、生け花、音楽、カラオケ、朗読紙芝居、発声、園芸、料理、レクリエーション

(2) 各種会議、委員会、研修の状況 ⇒ 一部中止 規模縮小 開催の場合は感染対策を講じて実施

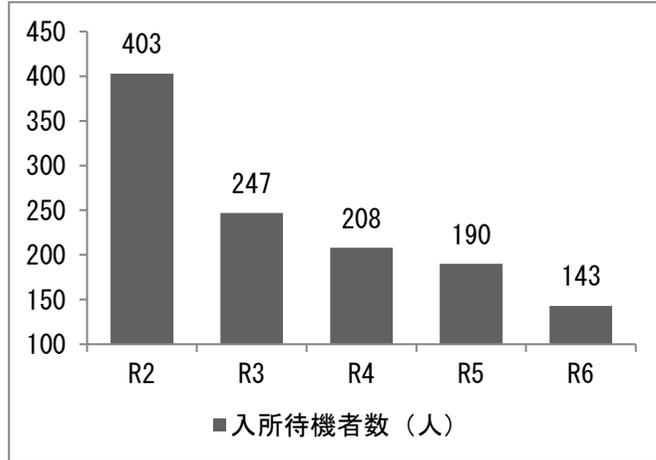
	主たる実施内容
各種会議	<p><法人内> 施設長、局長・事務長、各部門、プロジェクト</p> <p><施設内> 職員全体、運営、ケアカンファレンス、部署（職種、業務）、業務検討、広報編集、環境整備、省エネ対策、メンタルヘルス対策 *その他の会議（事業部門、正副主任、エリア、看護と介護の医療的ケア、感染対策、事故防止対策、サービス向上、リスク管理、自衛消防） *ユニットケア施設の会議～ユニット、ユニットリーダー</p> <p><施設外> 福島県主催～社会福祉施設長、県老人福祉施設協議会主催～施設長</p>
委員会	<p><施設内> 防火管理、苦情解決、身体拘束廃止、事故防止検討、感染症・食中毒予防、褥瘡予防、医療的ケア対策、高齢者虐待防止委員会、衛生委員会・ストレスチェック実施（一部施設）、生産性向上委員会 *その他の委員会（広報、環境整備、看取り介護、省エネ対策、業務検討、生活向上、機能向上、メンタルヘルス、レクリエーション、実習受入、ボランティア、持ち上げない介護推進、認知症カフェ実行、BCP）</p>
研修会	<p><法人内> 全体、新規・中途採用職員、人材育成、介護福祉士受験対策、日本語能力検定受験対策</p> <p><施設内> 全体会議内（事業計画、各部署・委員会総括、各種研修報告、自衛消防計画、交通事故防止対策、ユニットケア、ケアプラン、倫理及び法令遵守、プライバシー保護、メンタルヘルス、ハラスメント防止、高齢者虐待防止、新人職員、苦情解決、身体拘束廃止、褥瘡予防、感染症及び食中毒防止、消防防災、地震想定防災、事故の発生予防、事故発生時等緊急時の対応、非常災害時の対応、職員マナー、営繕管理対策、省エネ対策、認知症及び認知症ケア、看取りケア、看取りの精神的ケア、機能訓練、介護、排泄ケア、移動介助技術、腰痛防止、看護と介護の医療的ケアの連携、看護、経管栄養、吸引技術、利用者接遇、24時間シート活用、体位交換、就寝環境、栄養ケアマネジメント、ソフト食） 全体会議外（新人職員研修）BCP研修、ICT研修</p> <p><県老人福祉施設協議会主催> 職種別研修会（事務職員、生活相談員、介護支援専門員、主任介護員、介護員、新人介護員、看護師、機能訓練指導員、給食担当者）</p> <p><県社会福祉協議会主催> 職種別・階層別研修会（新任職員、事務職員、施設職員、中堅職員、中堅管理職、研修担当職員、研修担当職員フォローアップ、指導的職員、看護等職員、栄養士）</p> <p><その他> 雇用管理責任者、福利厚生企画、防火管理者、防災の集い、危険物取扱保安、社会福祉法人会計基準、介護支援専門員実務、ボランティア受入、福祉サービスに関する苦情解決、介護職員ステップアップ、介護福祉士実習指導者、介護技術、排泄ケア、認知症高齢者対応、認知症介護スキルアップ、ユニットリーダー、身体拘束廃止実務、喀痰吸引等、介護保険施設看護管理者、看護管理者育成、痰の吸引等実施のための指導者養成看護師、看護職と介護福祉士の交流会、医療安全、感染症対策のあり方、リスクマネジメント、接遇マナー、特定給食施設、外国人介護人材フォローアップ研修等</p>

4-2 各事業報告（老人デイサービス事業、軽費老人ホーム、居宅介護支援事業所）

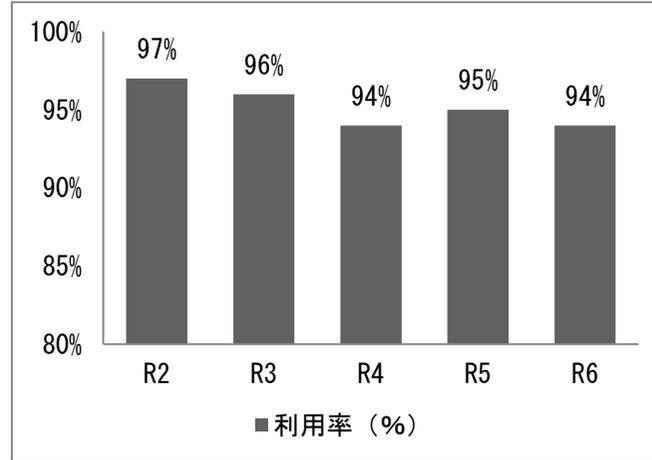
	都路まどか荘 デイサービスセンター	田村市船引 デイサービスセンター	ケアハウス ふねひき福寿荘	田村市船引在宅 介護支援センター
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①職員の資質向上、連携、情報共有の徹底 ②田村市船引デイサービスセンターとの職員間交流 ③各種災害・感染症発生時の業務継続計画と訓練 ④認知症カフェ継続 ⑤ICT活用による業務効率化の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①利用稼働率向上 〈稼働目標値：1日 通常型 18名 総合事業 5名〉 ②職員間の連携と協調 ③職員の資質向上。職員一人のひとりの意識改革 ④多様化するニーズへの細やかな対応 ⑤併設事業所間、法人事業所間との更なる連携強化（地域貢献・宿直・災害時緊急対応・都路まどか荘デイサービスセンターとの交流事業） ⑥感染症予防・事故防止対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ①施設設備等の更新修繕計画の実施 ②施設の認知度をたかめるため、他施設へ継続したPR活動による待機者確保 ③住み慣れた自宅となるよう「地域の施設」として価値を高める ④安定した稼働率を目指した4事業所間の連携強化 ⑤食の楽しみと介護予防の取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①自立支援を目指した個別性のあるケアプラン作成 ②目標給付管理件数 月間平均 1人当たり34件（予防を含む） ③地域包括支援センターとの連携、予防プランの作成、困難事例の適切な対応 ④法定研修受け入れと人材育成 ⑤地域包括ケアシステムの担い手として地域ケア会議、地域のニーズ把握、働きかけ、地域を支える仕組みへの参画
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ①職員間での情報共有、連携に努め、コミュニケーションを重視し、サービス提供事業所として適切な運営を図ることができた。 ②ご利用者の積極的受け入れを継続して行った。 （新規14名、一日平均15名） ③4名が参加し、事業所見学・意見交換等を行い、互いの業務を理解することが出来た。気づきや業務改善へ繋がった。 ④各種災害・感染症発生時の対応について研修や訓練、勉強会を通して、業務継続の重要性を理解した。 ⑤特養と連携し、地域の方々や関係機関との情報共有、連絡等を行いサービス利用に繋がった。 ⑥ケアカルの導入により、業務内容の改善、負担軽減に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①（一日平均：通常型 16.9名 総合事業 5名）目標達成には至らなかったが、前年度は上回った。 ②業務の見直し改善を常に図り、職員間の連携、適切なサービス提供につながった。職員数の変動にも柔軟に対応できた。 ③朝礼での理念の唱和を継続して行い、職員一人ひとりの意識改革に勤めた。デイサービスの役割りや家族の理解、接遇面の勉強会に力を入れ資質向上につながった。 ④時短利用や、個別の送迎対応、認知症利用者等、家族の希望に合わせた受け入れを積極的に行った。 ⑤併設事業所との連携を密に図り、コロナ発生時の情報共有や、新規のご利用者獲得への呼びかけを行った。情報を共有する事で稼働率アップやそのご利用者への包括的なサービスにつながった。新しく都路まどか荘デイサービスとの事業所間交流事業研修を2回実現できた。 ⑥コロナ感染のご利用者はいたが、早期対応により、クラスターやサービス停止になる事なく稼働ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①大規模な修繕として入居者の出入りがある際に居室の床の張替え工事を行った。今後も随時行う。また、経年劣化している箇所を把握し修繕し職員で補えるところは極力対応した。 ②各事業所に情報提供を行い、営業活動を実施した。在所率は月平均 27.1名、居室率だと目標を達成した。 ③ケアハウスが自宅となるよう職員が対応し、ご家族へ繋ぐ事で健康管理等ができています。病院送迎などご家族や外部サービスを使うことで支援ができました。 ④高齢化が進み状態の低下、認知症、精神疾患等、ニーズは多様化している。生活維持に支障をきたす際は外部サービスや併設事業所に繋げて対応した。 ⑤ご利用者のニーズを大いに反映したが、参加型のお料理クラブについてはアンケートで、来年度については、参加したくないとの声が多く聞かれた。運動サロンに於いては月に1回程度派遣職員による講座が大変喜ばれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個々の状況に応じた自立支援を基本とし、介護保険外のサービスを盛り込んだケアプラン作成を心がけた。 ②職員体制4名を継続。地域の介護支援専門員の異動に伴った引継ぎや新規相談を断ることなく受け入れたが、目標に近い件数になるものの達成出来なかった。 ③要介護から予防になった方については継続支援し、困難事例については地域包括支援センターの他、相談支援事業所と連携を図ってきた。 ④今年度、介護支援専門員の法定研修3名を受け入れる。法定研修参加2名。定例会で事例検討を随時開催し、研修へも積極的に参加し事業所としての知識や技術の向上を図った。 ⑤地域ケア会議に事例提出を行った。

< 参考資料 1 >

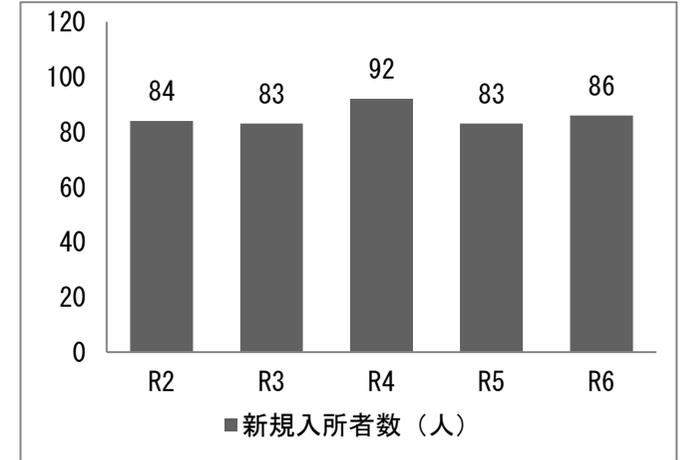
(1) 特別養護老人ホーム 入所待機者数の推移



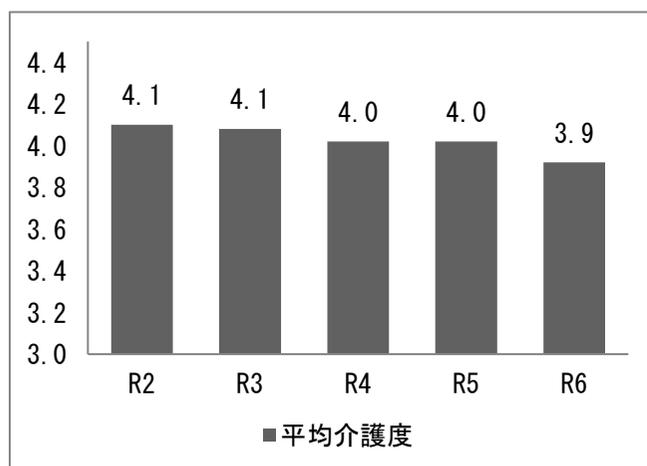
(2) 特別養護老人ホーム 利用率の推移



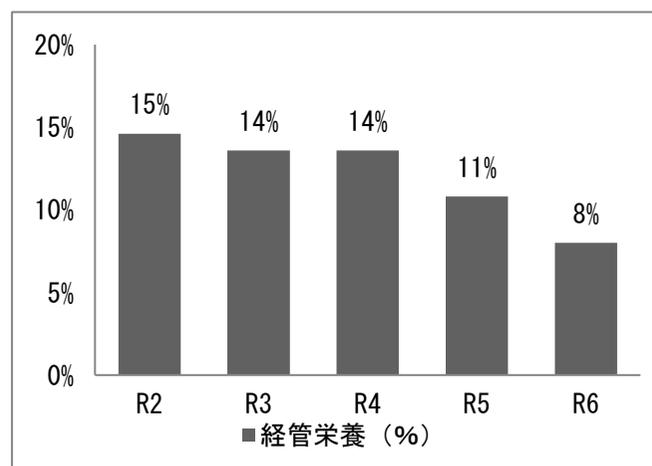
(3) 特別養護老人ホーム 新規入所者数の推移



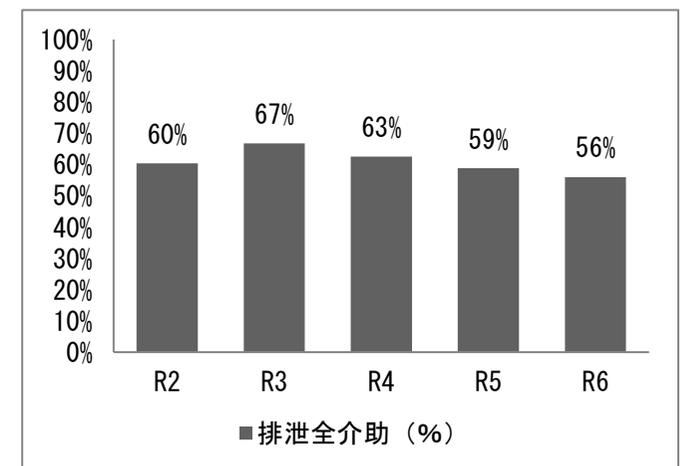
(4) 特別養護老人ホーム 平均介護度の推移



(5) 特別養護老人ホーム 経管栄養の推移

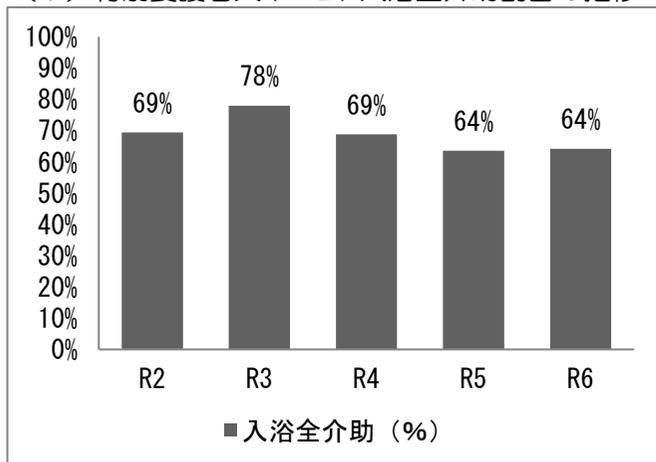


(6) 特別養護老人ホーム 排泄全介助割合の推移

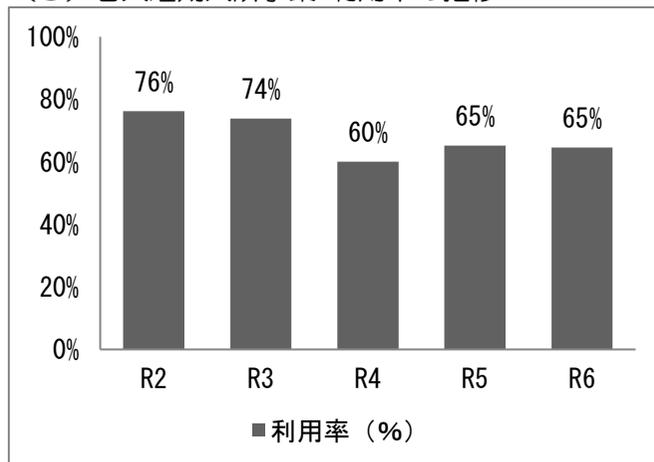


<参考資料2>

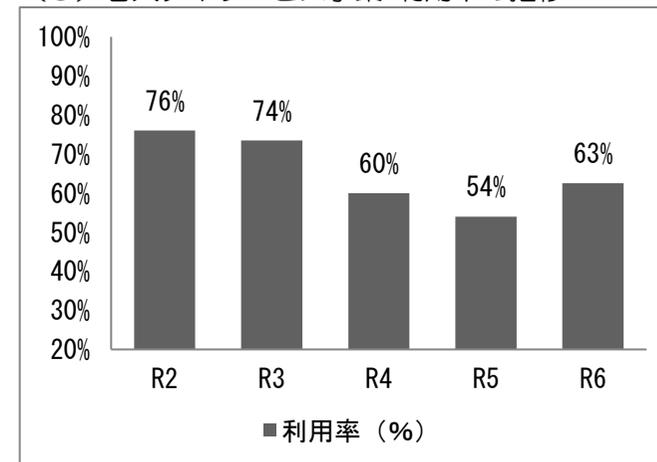
(7) 特別養護老人ホーム 入浴全介助割合の推移



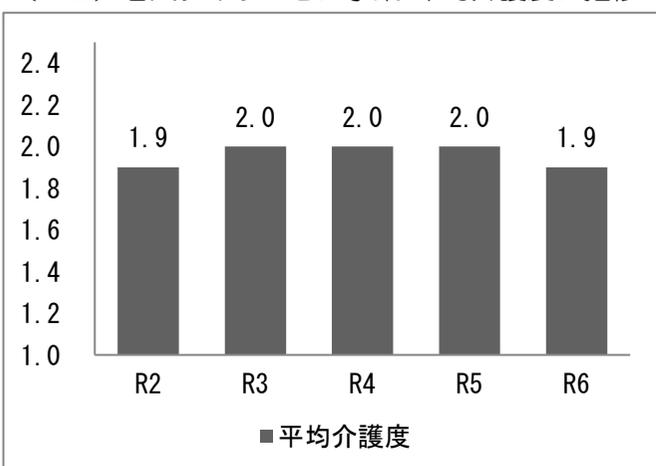
(8) 老人短期入所事業 利用率の推移



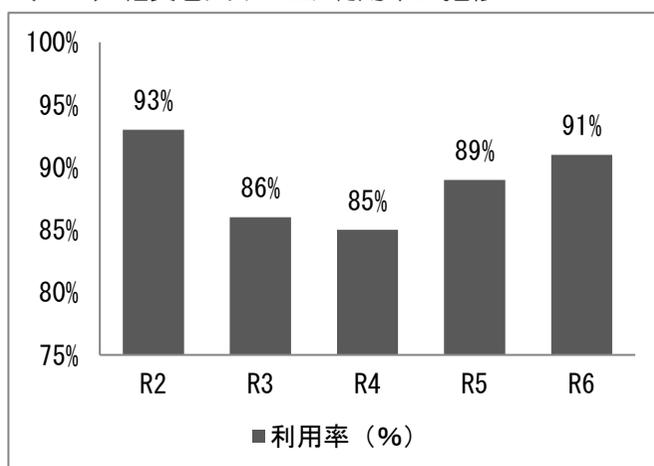
(9) 老人デイサービス事業 利用率の推移



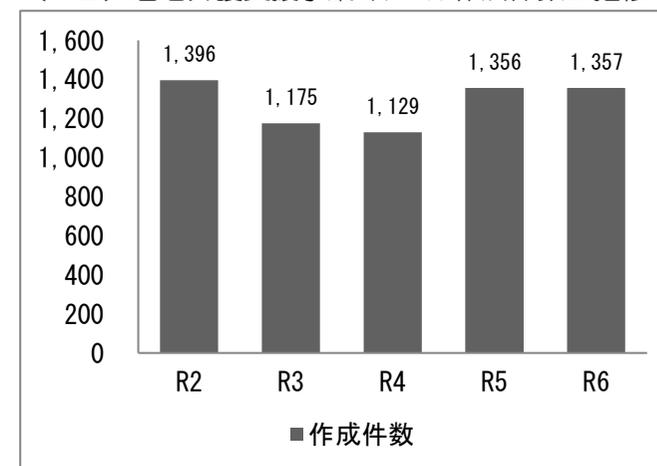
(10) 老人デイサービス事業 平均介護度の推移



(11) 軽費老人ホーム 利用率の推移



(12) 居宅介護支援事業 ケアプラン作成件数の推移



5 身体拘束の実施状況と廃止への取り組み（年間）

(1) 身体拘束実施件数 7 件

入所者の生命維持の必要性から医師の指示により一時的に身体拘束を実施した。

一時的な抑制方法としてミトンを使用した。

（身体拘束が認められる条件は「切迫性」「非代替性」「一時性」。本人及び身元引受人に説明し確認後に実施。）

(2) 身体拘束廃止への取り組み内容

○身体拘束廃止委員会活動により実施した。

○研修・学習会を通じ身体拘束廃止についての理解を深めた。

○ケアカンファレンス等の会議を通じて個別の対応策の検討及び見直しを図った。

6 事故報告と防止対策（年間）

(1) 重大な事故の報告件数 46 件

* 重大な事故 (1) 転倒・転落またはその他の事故により医療機関を受診し治療を行ったもの・・・ 19 件
(2) 誤嚥等により窒息し、意識喪失があったもの（受診の有無は問わない）・・・ 件
(3) 離脱し（施設外に出てしまい）捜索を行ったもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 件
(4) 誤薬により体調不良になったもの及び医療機関を受診し治療を行ったもの・・・ 件
(5) 送迎や受診時に交通事故を起こしたもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 件
(6) その他上記に準ずる重大な事故・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27 件（うち、服薬誤り25件）

(2) 主な事故防止対策

○事故防止対策委員会活動により実施した。（事故直後、定期及び随時の開催）

○定期的にモニタリングを実施し再発防止に努めた。

○事故事例の集計分析により事故の多面的な傾向を踏まえた要因分析を行い再発防止に努めた。

○事故及びインシデント報告書を全職員に周知し、情報共有を図った。

○施設内外の研修へ参加し報告会を実施した。勉強会や研修会を通じて事故防止のための能力向上に努めた。

7 苦情受付事例と解決への取り組み（年間）

(1) 苦情内容別件数 3 件

(2) 苦情内容及び解決への取り組み内容

種別	苦情内容	苦情解決への取り組み内容
短期	<ul style="list-style-type: none"> ご家族より、退所時に男性職員に次回利用時に早めの迎え依頼したところ、返答が何を言ったか分からずよく聞こえず、回答がぶっきらぼうだった。また、お世話になった際、昔の人は帰る人を門口まで見送るので、本人が挨拶したかったのに早く入れと言われたとの申し出があった。 本人より、体操の時間に他のご利用者には声掛けしていたのに、自分には声がかからなかったとの申し出があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 謝罪し、次回利用時の送迎時間を確認する。 体操の参加の声掛けには、介護員から利用中ご本人から話あり謝罪する。
デイ	<ul style="list-style-type: none"> 本人はストーマパウチを他のご利用者に見られたくなかったが、職員が見える形で本人の所まで持って行ってしまい、不快な気持ちにさせてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> 対応した看護師、総務統括、相談員にて事実確認をし、本人宅へ訪問し謝罪している。また再発に努めストーマの管理方法について再度周知をはかった。
デイ	<ul style="list-style-type: none"> ご家族の迎いで帰宅される際、職員が車両への乗車介助を行い、シートベルトの装着を介助した。その際、小柄な方であったため、シートベルトが首にかかり苦しくなってしまうと思い、シートベルトの斜めの部分を体の後ろ側に回して装着したところ、ご家族より「適切な装着ではない」と指摘を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しいシートベルトの装着方法の周知と、シートベルトカバーの導入を行うとともに、改善策について家族に報告している。